今井地区　市長と住民の「こんだん会」
～臥雲市長にアタック！地域の元気な声を届けよう～
報告レポート

１　テーマ
農業による今井地区の挑戦！
～新規就農者の取組みから人口定常化を目指す＆農業の未来を創る～

２　ねらい
農業地帯が抱える遊休農地、後継者問題などの課題を解消する新規就農の取組みや、農作業の効率化など農業の未来について、地区住民と市長が意見を交わし、人口定常化や地域活性化に繋がる施策の実現に向けて考える。

３　日時・場所
令和４年１２月８日（木）　午後５時～午後７時１０分
今井農村環境改善センター（今井地区地域づくりセンター）大会議室

４　参加人数
２８人（市長、農政課長、車座参加者８人、傍聴者１４人、関係職員４人）

５　車座参加者
今井地区農業関係者ほか

６　市長あいさつ

それぞれの地区の抱えている課題や、これから力を入れていきたいというお話を伺い、また今、松本市で取り組んでいることをもっとこうすべきだというご意見をいただく場として開催している。

今日の今井地区は農業をいうことで、最も農業の比重の大きな地区といってもいいと思いますし、また、最も松本の中で農業の新しい取り組みをしている地区ということも、常々話を聞いている。

また一方、裏腹としての後継者の問題の深刻さ、そうしたことも抱えていると思いますし、今日は女性の農業に携わっている方に来ていただいていますが、新しい動きというものをどう伸ばして広げていけるかということが、今ちょうど転機というかチャンスになる可能性として大きな局面だなということも感じている。

ぜひ今日は、様々な皆さんの取り組みを直接お伺いして、そして今、松本市が取るべき農政の取り組みは何なのか。ということを考える時間にさせていただければと思っている。

７　発表・意見交換

◆　横山竜大さん（発表者）

- 　遊休荒廃地の問題を契機に、平成 16 年に３名で「松本太郎果樹生産組合」を設立。現在は 15 名で活動中。
- 　活動内容の一つは、新規就農者を受入れ、農地確保や技術指導、機械貸出、地域との橋渡しなどの支援をしている。
- 　今井には１７名の新規就農者が訪れ、１６名が今井に居ついて農業に従事している。家族を入れると５１名の今井の人口が増えたことになる。
- 　世話をする中で困るのは、住宅の確保が難しい。農家としてベストは、一軒家で、倉庫、作業場があることだが、見つかりにくい。地域や行政に手助けいただきやっているが、手詰まり感がある。
- 　アパートに住みながら農業をやっていくことも模索する必要がある。10 年間くらいアパート暮らしをしながら、生計が落ち着いたら家を建ててもらう。その間の行政も含めた指導、支援をお願いしたい。
- 　倉庫等はどうしても必要なため、農地法等々の決まりを特例でもいいので何か方策を考えていただきたい。アパートに住むが、作業は作業小屋でやれるよう、行政の知恵を貸していただき、一緒に解決していきたい。

◆　石丸哲広さん

- 　新規就農者として、住宅、倉庫、作業する場所、機材置く場所がないことが一番困ったところ。里親さんも凄く頑張っていただいている。
- 　私は 9 軒ぐらい見てもらいようやく決まった状況。教員住宅も勧められたが、手狭で家族を全員連れて来れず、長女と 2 人で村井に家を借りたが出勤に時間を取られてしまう。その辺を考えていただけると、今後の人は助かると思う。

◆　横山竜大さん

- 　その他の活動として、一躍有名にしていただいたのが YouTube。面白いツールで何か活用ないかと思っていたところ、弟子の協力で、私の指導を YouTube で発信してみようということで始めた。何が良かったのか、登録者数も 6000 人を超えており、再生回数も 60 何万回とだいぶ見ていただいている。
- 　一番の副産物は、パートさんにこの動画を見せて作業の説明をしたところ、意識付けや統一感が増した。

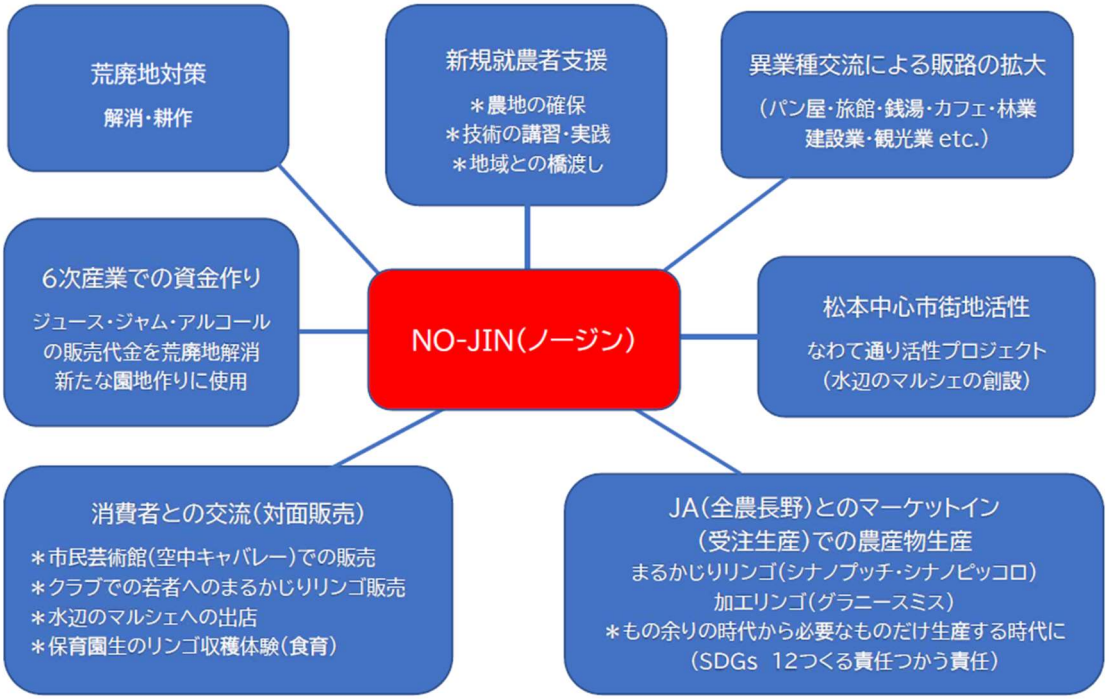
- 研修生の支援も行っている。毎年、農水省や東京農大、桃山学院大学、地元農業高校からも来ており、一緒に作業をしている。
- 農業施設の建築等も行っている。ぶどうの雨よけハウス、りんご棚などを作っており、毎年６件くらい依頼がある。道具もあり、仲間でやるため人件費がかからず、低コストでできる。また、解体した資材で研修生の施設も作っている。
- 道の駅の加工場でりんごジュースやジャムを作り、大阪の高級フルーツ店などで販売している。
- ＪＡや県普及センターなどの協力のもと、新しい技術や品種の検討も行っている。

◆　川上清志さん（ＪＡ担当理事）

- 遊休荒廃農地の再生には、伐採、伐根など重機での作業が必要で、個人では自己負担が多すぎることから、遊休荒廃農地対策事業に補助金をお願いしたい。

◆　横山竜大さん

- 松本太郎の弟組織として、４０代くらいの若手グループ「NO-JIN」がある。農産物のマーケティングや６次産業などに力を入れて活動をしている。荒廃地の解消や新規就農者の受入れも行っている。



◆　臥雲市長

- 　松本太郎の取組みなどにより、これまで家族を含めれば５０人を超える人が新たに今井に来ていること。しかもそこに、多士済々で前のキャリア様々な人が集まり、６次産業化に何らかの役割がみられ、非常に強力なチームになっているという話が興味深い。こういうことだったら公費を投入することが広く市民の理解を得られると一番感じた。
- 　住宅の確保が、潜在的にいる新規就農者を受入れて後継者不足解消に繋げるところのハードルになっている。新規就農者向けアパートは、地域はもちろん、松本市全体の豊かさとか持続可能性ということに繋がっていくという観点で、具体的に何をすればいいのか皆さんと一緒に考えたい。色々な条件を詰めていき、都市計画とか農地法上の問題をクリアにしていくことを、農政課長や皆さんの間で話を進めてもらいたい。
- 　遊休荒廃農地再生のための補助金問題も、公費を出す出さない、出せる出せないの一つの線引きが、それをやった先にどういう新たな取組みが生まれてくるのか。生産や収益が生まれてくるのかが一つのポイントだと思う。新しい農業の生産に繋がっていくということであれば、補助金という形での公費投入というのは、検討する価値が十分ある。

◆　横山竜大さん

- 　北信には廃園になった保育園を新規就農者に提供している事例もある。今井にどの程度そういうものがあるかわからないが、屋根があって作業ができればいい、検討をお願いしたい。

◆　川上清志さん

- 　私の家の周りにも空き家が結構あるが、情報がないため紹介できない。その家の連絡先、誰が相続者して管理するのか、町会なり行政の皆さんに情報をお願いしたい。データがあれば農協でいくらでも連絡をとる。

◆　臥雲市長

- 　町会や農業委員会など、色々なネットワークを行政の立場として集め、打開できないかなと思う。権利関係など把握できれば決して所有者が提供することに実は大きな抵抗がない可能性もある。
- 　今の宿題は、農政課や今井地区地域づくりセンターが起点となりながら、町会や農業委員会の皆さん、場合によっては地域の皆さん、また個別具体的なアプローチをし、積極的に活用したいと思っていている方が多く出来そうな新規就農者を受け入れる場所として、色々なネットワーク、アンテナを張り巡らして、集約する役割を私達は何とか果たしたい。
- 　今井地区の潜在的な受け入れ場所を増やして、新規就農者向けアパート的構想っていうようなものと組み合わせ、農業や自然の中で生きていきたいという、多彩な経歴や技術を持った人達が集まる。そんな状況を実際に松本太郎では実践されているので、それをもっと今井地区全体に広げていけるようなポイントとして、住宅の問題を何とか知恵出し合いながらやっていきたいと思う。

◆　塚田センター長

- 　そういう声を聞いており、農政課担い手担当、JA、農業委員さんらと何度か打合せをしている。その中で、まずは実態を把握する取組みを連合会長にも相談しており、松本市の空き家調査に併せて、どんな方が住んでいて、どんな状況なのかのリスト化を、年度内に町会長さんにお願いして作ろうと今考えている。

◆　武居達朗さん（町会連合会長）

- 　住宅課の調査は、家屋の老朽化や倒壊の懸念などマイナスを防ぐ調査たが、もう少し踏み込んで、プラスに転じられないかという視点も入れて調査したいと思っている。ただ難しいのが、持ち主が誰かってことが分りにくい。納税者が誰かなど行政の方の関与もお願いしたいと考えている。

◆　櫻井智代さん

- 　以前、道の駅ができて良かったが、もう一つ何かあったら良いという話をお聞きし、私はまさにアパートだと思っていた。アパートが建てば若い方が１人でも来てくれて、後継ぎがいない方のところでお手伝いから始めることで、農家を皆で盛り上げていけるのではないかと思う。家族版のコテージタイプやアパートタイプができれば素敵だと思い拍手した。ぜひ実現してほしい。

◆　臥雲市長

- 　空港を受け入れていただいているこの地域の包括的な振興策の視点を取り入れていかなければいけないと改めて思った。
- 　今井で新規就農者の受入れのモデルが作れると、前向きに見てこれなかったものを大きく舵を切るきっかけになる。アパートのご提案を聞いて思った。
- 　好きな言葉で「一点突破・全面展開」がある。まずはある場所で一番効果的な取組を実現させ、そこから波及効果を生み出していく意味。先程の話は、可能性を秘めていると思った。

◆　櫻井智代さん

- 　私が入っていた「松本新興塾」が休止状態になっている。新規就農で来た方が、地域を知るとか農業をしていく上で、凄く有意義な場所だった。ぜひ再開していただきたい。

◆　長谷川農政課長

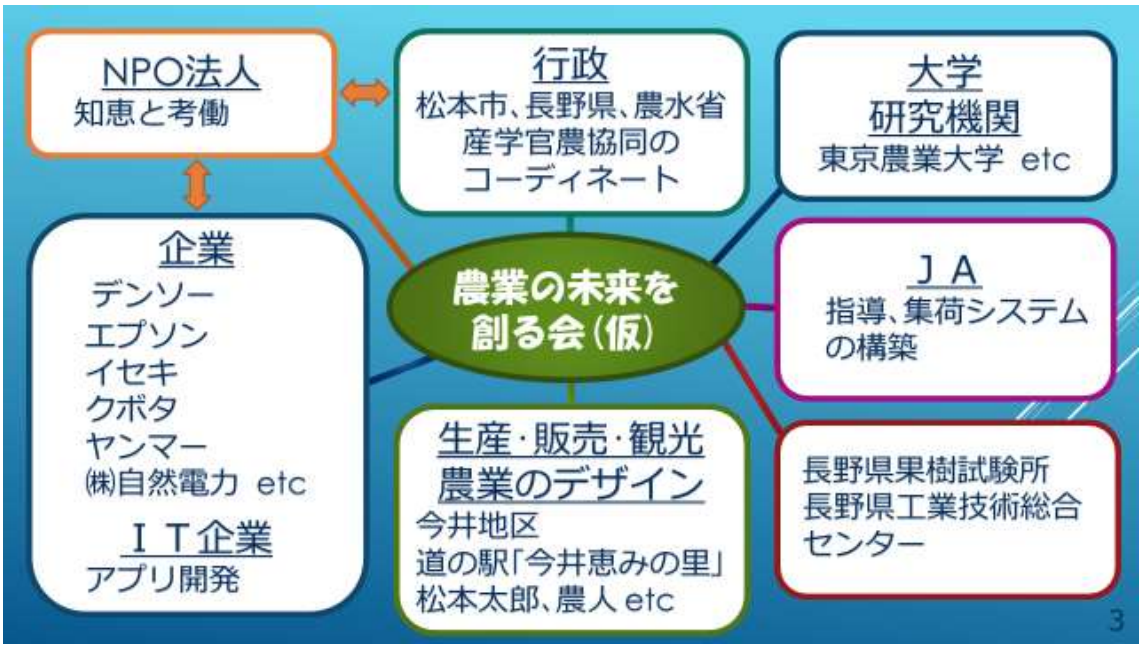
- 　新興塾に関わる行政、農協などの関係者や農業委員会の皆さんの中では、次の新興塾、学びの場の新たな方向性が見つけられないという状態。地域の塾に対する必要性や、やってほしいという盛り上がりがさらに高まってくれば、また関係者で考えたい。

◆　臥雲市長

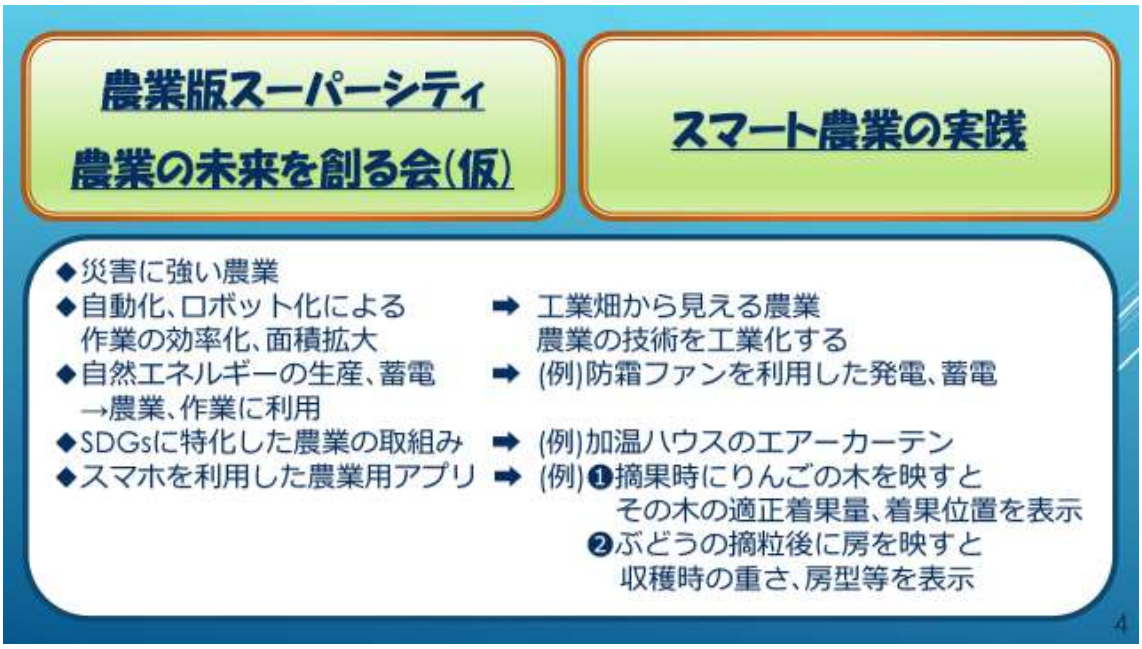
- 　我々も一緒になって相談をし、提案していただけるような状況で作っていきたいと思う。次なる企画、構想を皆さんと作って、こういうことならバージョン２だな、進化してくな、アップデートして今の時代に合ったものになってくな、というものを櫻井さんもそこに参画していただき、リスタートできればと思う。

◆　横山竜大さん

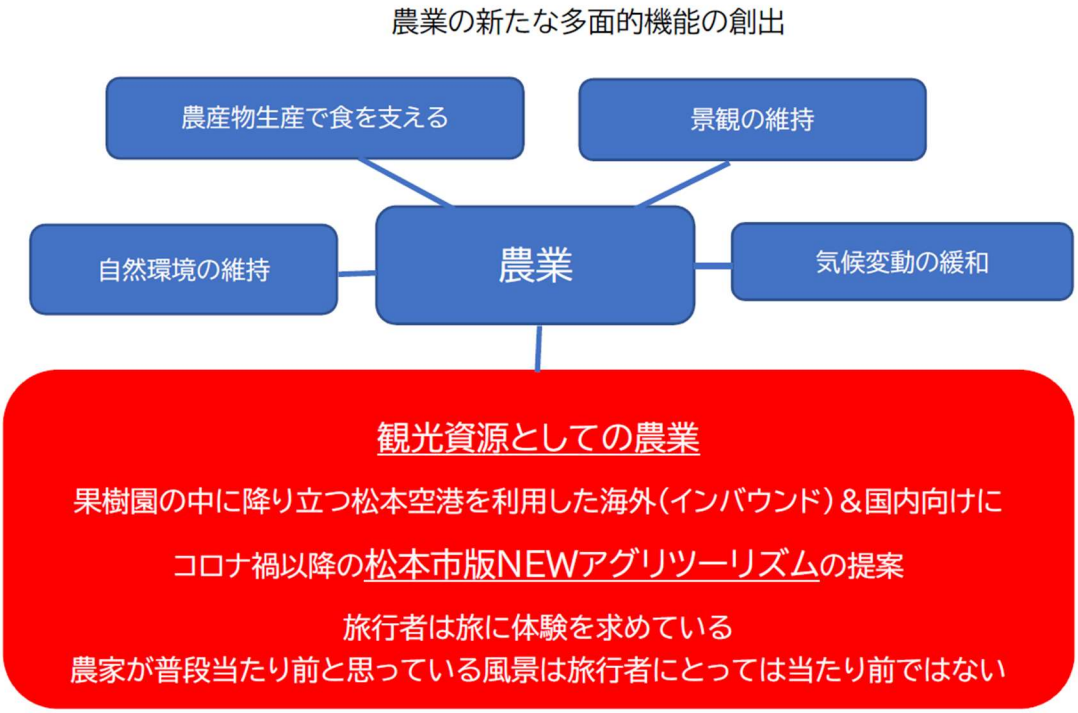
- 　今年経験した大きな出来事は、農研機構、デンソー、東大、山形大学等の博士の皆さんとぶどう栽培ロボットの開発を我が農場で行ったこと。幾つか提案したり、農家目線でできたら良いことも話をした。
- 　工業、ＩＴ企業等と連携、協力し、手を携えることによって新しいイノベーションが生まれてくるのではないかと思う。
- 　農業従事者が高齢化しており、ハードランディングが懸念される。ソフトランディング又は再浮上には、若者の力が必要になる。それには若者が魅力を感じるような農業であり、魅力ある地区には、移住してくる。人口が定常化していくことで、産地を守れると思う。
- 　そこで、今井に「農業の未来を創る会(仮)」というプラットフォームをつくりたい。幅広い年齢層の農業者、農業に興味のある若者等で構成し、魅力ある農業を研究、提案していく。その提案に必要な企業、大学、研究機関等とマッチングしていく。
- 　ロボット等も活用し、高齢者の農業者をサポートして、しっかり働いていただき、現状を維持するとともに、若い力がその上に乗っかって再浮上するイメージ。

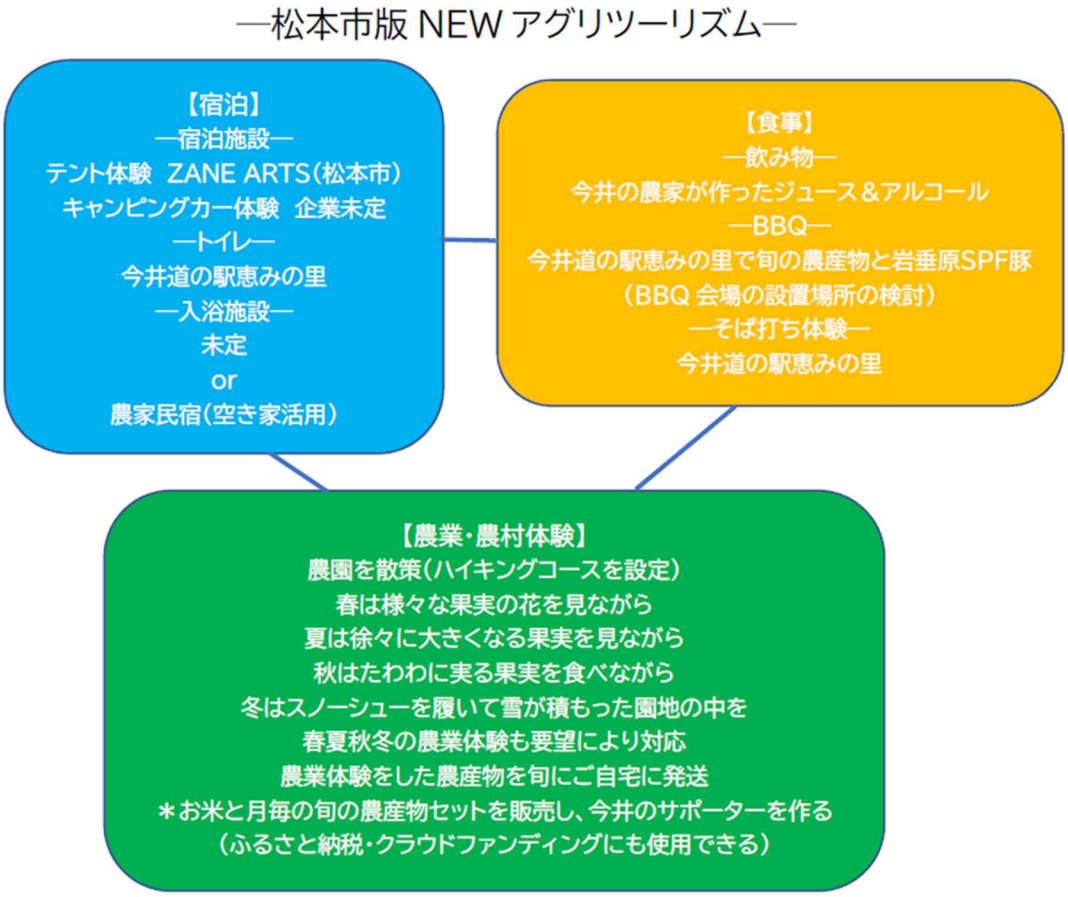


- 　防霜ファンを利用した自然エネルギーの生産・蓄電も考えている。また、加温ハウスのエアーカーテンによる SDGs に特化した農業や、ぶどうの摘粒作業の動画をパートさんに見せて訓練に活用する等、スマホ利用も考えている。



- NO-JIN からは、観光資源としての農業で今井を活性化する提案。松本市版 NEW アグリツーリズムと銘打ち、テント泊や農家民宿などにより、田舎の風景やりんご園、水田自体の魅力を感じてもらうもの。道の駅や観光会社等との連携も見据えていきたい。





- 市役所が商工部と農政部を一緒にしたことをネガティブに捉えていたが、一体化することで新しいイノベーションを起こして活性化するのではないかと思う。新しいイノベーションの一躍を我々は担いたいし、協力もしたい。ぜひ一緒にお願いしたい。

◆ 臥雲市長

- 色々なところに繋がり、その人達が支えるプラットフォームの「農業の未来を創る会」。ぜひ具現化して動き出してほしい。このプラットフォームを中心に今井の新しい農業が生み出される可能性を感じた。我々も必要な橋渡し、調整をぜひやりたいし、やらなきゃいけないと思う。
- 防霜ファンの発電・蓄電は、考えるだけでも価値がある。チャレンジ、発想を持って前向きにいくことで、若い世代から見れば魅力的な場になっていくと思う。キャンプや農家民宿の可能性も十分あると思う。今までの常識を超え、なんとなく不可能だと思っていたことがそうではなく、それを今一番やれる分野は、農業かもしれない。

◆　長谷川農政課長

- 国では、やろうとしている地域や事業者を支援する制度が充実している。ぜひ松本で事業に取り組むモデルになってやっていただけたらと思う。

◆　田中武彦さん（農地利用最適化推進委員）

- 新規就農してくれる人は多くいるが、住宅問題がネックになり、困っている。移住の候補地として一番のところだと思うので、行政の方でも補助していただきながらやっていければと思う。
- NO-JIN の彼らは、いろんな人達と交流する中で、農業の面白さを感じており、可能性を見出している。

◆　伊藤恵美子さん

- 今井の農業の未来は凄く明るいな、単純に凄くワクワクして話を聞いていた。農業は心も豊かになる。新規就農者の方々が子沢山なのは、心豊かな日々を送られているからだろう。農業ってなんて素晴らしいと思う。
- 道の駅では、県外の方々が沢山来られて、山のように買われている。それだけ美味しい産物を作れる今井地区は、先人の方々が、今井を良くしよう、農業を発展させようと情熱を持って頑張ってくださったからだと思う。それをこれで終わらせてはいけない。これから新しい農業っていう部分で行政のお力添えをいただきたい。
- 後継者がいないことで悩まれている先輩方も多いと思う。松本太郎や NO-JIN の取組みが、これからの今井の農家、農業を救うと思う。それがグループだけでなく、今井全体として盛り上げていくモデルのような形になっていただきたい。今井の農業の発展が、日本の農業の発展にも繋がっていくと思う。

８　一般参加者意見

２名の方から、感想・意見あり

９　まとめ

◆　田中悦郎さん（農業委員）

- 横山さんの話されたことが、突破の突破口となる。基礎的自治体としての松本市、松本市農政から出発しないといけない。全面的なバックアップが必要だと思う。
- 今の基本は、定年農業者や休日農業者、親元農業者。ここにも目を向けなければいけない。生きがいを持ってやってもらわないといけない。
- 市長をはじめ担当部局の皆さんと我々が、一緒に接点を持ちながらやることで、今井は良くなる。今井の農業が良くなるということは、松本市の農業が良くなること。一緒にお願いしたい。

◆　武居達朗さん（町会連合会長）

- 　本日ご発言いただいた皆さんに共通しているのは、農業という産業に対する前向きな取組みと展望。そしてある意味、したたかな戦略と行動があるということ。臥雲市長に感じ取っていただきたかったのは、熱意とプライド、いわば心意気というもの。1 から 10 まで助けてほしいということではなく、個々の努力を前提として取組みを進めていくに当たり、行政でなければできないことに対して、ご支援いただきたいと考えている。
- 　臥雲市長と発言していただいた皆様方に心から感謝申し上げる。町会連合としても、この地域のより一層の活性化のために継続して取り組んでいくので皆様方からも引き続いてのご協力をお願いしたい。

◆　臥雲市長

- 　新しいことにチャレンジするためのハードルになっているルールをどう変えるか、どう新しいルールを作るかということに様々な面で取り組んでいきたい。
- 　今日は本当に楽しかった。そしてワクワクした。楽観的な話だけではないことも沢山ある上での皆さんの前向きな提案や構想であるからこそ、ワクワクしたと思う。厳しい状況を乗り越えようという人達がこれだけいる、今まで気付かなかったり、もっと先をいっていることがあると思ったからワクワクしたと思う。様々な角度からいただいた話を直ちにできることから、動き出すことから始めたい。